学び舎通信

11月号

町内小中学校の情報を
毎月お届けします

大河原中学校「オリオン」の活動

10月13日の朝、大河原警察署、少年補導員、防犯協会員の皆さんと一緒に、約60名の大河原中学校「オリオン」のメンバーが元気なあいさつとともに、登校中の小・中学生に非行防止・自転車盗難防止を呼びかけるグッズ等の配布を行いました。

「オリオン」のメンバーは、各学期1ヶ月間、毎週火曜日の朝にあいさつ運動と自転車のツーロックの呼びかけの活動をしています。この活動の成果が出ていて、大河原中学校の生徒のあいさつは年々よくなっていると地域の皆さんからお褒めをいただくようになってきました。さらに、ここ数年大河原中学校の生徒の自転車盗難数も減ってきています。

見聞を広げよう！学びの秋 1学年「仙台自主研修」

1学年仙台自主研修が9月16日に実施されました。

生徒たちは、自分たちで研修計画を立て公共交通機関を利用し、宮城県庁経済商工観光部をはじめ、図書館や動物園、博物館と科学館、天文台など5班に分かれて、仙台市内8施設を訪れてきました。各班は計画に従って施設を見学し、文学、歴史、科学、宇宙、生命、郷土についての見聞を広げました。

この研修を通して、2年次の職場体験や3年次の修学旅行に繋げていけるよう公共交通機関の使い方や公共マナーについても学習しました。まさに校外学習でしかできない充実した「学びの秋」の一日でした。

暗唱大好き シリーズ⑦ 金小編

朗読朝会「寿限無寿限無五劫のすり切れ…」

先日、朗読朝会がありました。今回は3年生です。おおがわらの暗唱読本にもある「寿限無」です。3年生42人が落語でも有名な「寿限無」に挑戦しました。

1年生からも笑いが絶えない朗読朝会になりました。何度聞いても面白い「寿限無」。内容はもちろん、話のテンポ、言葉遊び、早口言葉などが話の中に網羅されているからだと思います。

先日、6年生の教室をのぞくと暗唱読本を手にしていた児童たちが暗唱できるよう練習をしていました。高学年の内容は難しく、長いものも多くあります。果敢に挑戦する姿を見てとても頼もしく思いました。11月の朗読朝会では6年生が当番です。何の発表なのか今から楽しみです。

金ケ瀬小学校では、朝の時間や授業中、家庭学習で取り組ませています。暗唱を得意とする児童がどんどん増え、進んで発表できる児童が育つよう今後も取り組んでいきます。

学力・体力向上を目指して ～仙台大学との連携～

本校は、昨年度、児童たちの学力・体力向上をねらい、仙台大学との連携校に指定されました。9月には、各学年の体育の授業に6名の学生が来校しました。

授業では、学生に手本の運動も行ってもらいました。児童たちは学生の技のすばらしさに目を輝かせていました。また、児童たちのマット運動の動きを映像化し、それを見ながら上達する方法を助言してもらいました。

授業後には、学生から「素直に話を聞き、一生懸命に練習に取り組むすばらしい子どもたちです。」と褒められました。

社会見学

9月21日、2年生の八木山動物公園の社会見学を皮切りに、1年生から4年生までが社会見学を行いました。今回は4年生の社会見学の様子についてお知らせいたします。

4年生は、七ケ宿ダムと南部山浄水場、材木岩公園へ行ってきました。ダムの下にあるひんやりした通路を探検したり、水がきれいになる仕組みについて実験を見せてもらったりするなど普段はできない体験ができました。4年生の社会科に浄水場のしくみについて学習するところがありますが、実際に自分の目で見ることができた児童たち、生きた学びとなったようです。

「歓声が上がったサツマイモの収穫！」

10月13日にJA仙南女性部の皆さまにご協力いただき、1・2年生が「サツマイモ掘り」をしました。さわやかな秋晴れのなか、土を掘り起こし顔を出す赤紫色のイモを見て、「あったぁ～！」「つながってる」「おおきいーっ」と次々と歓声が上がりました。

今回収穫したサツマイモは、もがり祭の「みこしパレード」で感謝の気持ちを込めて地域の皆さまに配ったり、学校でのお楽しみ会で食べたりする予定です。

身近な自然再発見 …人間と共生する昆虫たち…

31「ハチの左官屋さん」

▲トックリバチの巣

あるテレビ番組で日本の素晴らしい職人技が紹介されていました。普段見慣れた職人さんの技術が外国から褒められるのは気持ちがいいものです。今回は、ハチの左官屋さんに登場してもらいましょう。

先日、お彼岸にお墓参りに出かけました。墓石の文字の中に泥の玉を見つけたのですが、その形がお酒を入れるとっくりとそっくりでした。これを作ったハチがトックリバチの匠です。

とっくり作りの作業はこんな具合です。母バチはまず近くの崖などから土をとってきます。自分のつばと混ぜ合わせながら泥の玉を何個も積み重ねます。その玉をなでたり、こねたりして、つぼの形に仕上げるのです。

ときには、自分の腹部をこてのように動かして、壁の内側を滑らかにします。入口を丸くひさしのように整えるのは、雨水が入らない工夫です。なかなか芸が細かいですね。人間の左官屋さんにも引けを取らない匠の技です。

つぼが出来上がると捕まえたガの幼虫をつぼのなかに入れて卵を産みます。あとは入口を泥でふたをして飛び去ります。

つぼを開くと、卵がつぼの内壁に糸のようなものでぶら下がっています。この糸は母バチが産むときに出した粘液が固まったものだとか。空中に浮かんでいるため、底にいるガの幼虫が動いても卵はつぶされません。この母バチの細やかな愛情と危機管理は人間も顔負けですよね。

人間界ではわが子にろくすっぽ食事を与えない親もいるようですが、トックリバチのおっかさんを見習ってほしいものです。

次回は、中学生なら誰でも知っているガにまつわる話です。

元金小校長、昆虫教室（町教育委員会主催）講師 鈴木健司さん